※令和４年度以降入学生用

学校番号	２２０１

令和５年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ①	単位数	２	年次	１～４
使用教科書	「新　高校の数学Ⅰ」　（数研出版）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では教科書を用いて基本事項の解説および問題演習を行います。また、一人一人の習熟度に応じて難易度の高い問題演習も行います。
・練習問題に取り組む中で、自分の考えを発表し、グループワーク等で意見を交換する機会もあります。
・単元の初めや節目には、数学を楽しいと感じるようなレクリエーションなどもあります。

２　学習の到達目標

① 数と式，２次関数について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
② 事象を数学的に考察したり，多面的・発展的に考えたりすることを通して，解決の過程や結果を批判的に考察・判断する力を養う。
③ 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数と式、２次関数における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身につけている。 また、事象を数学的に表現・処理する仕方や関数をグラフ上にかくなどの技能を身に付けている。	数と式、２次関数において事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。	数と式、２次関数における考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	第1章　数と式	第1節　数と式の計算 1.計算の基本 2.単項式と多項式 3.多項式の加法と減法 4.多項式の乗法 5.展開の公式 6.因数分解 7.展開、因数分解の工夫 8.根号を含む式の計算 9.実数	a:計算の優先順位を理解し、展開や因数分解ができる。 b:展開の公式がなぜ成り立つかを分配法則をもとに考察することができる。 c:計算方法に関心をもち、積極的に習得しようとする。	小テスト プレ定期考査 課題提出	小テスト プレ定期考査 課題提出	ノート提出 授業態度 課題提出
		第2節　1次不等式 1.1次方程式 2.不等式 3.不等式の解	a:１次不等式の解を求めることができる。 b:1 次不等式を解く方法を考察することができる。 c:日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、不等式を問題解決に活用しようとしている。	小テスト 定期考査 課題提出	小テスト 定期考査 課題提出	ノート提出 授業態度 課題提出
	第2章　2次関数	第1節　2時関数のグラフ 1.関数 2.1次関数のグラフ 3.2次関数のグラフ(1) 4.2次関数のグラフ(2)	a:放物線の形や軸、頂点について理解し平行移動をすることができる。 b:関数を表、式、グラフによって考察することができる。 c:　関数の身近な利用例とその利用方法に関心がある。	小テスト プレ定期考査 課題提出	小テスト プレ定期考査 課題提出	ノート提出 授業態度 課題提出
		第2節　2次関数の値の変化 1.2次関数の最大値・最小値 2.グラフと2次方程式 3.グラフと2次不等式	a:２次関数が最大値・最小値をもつことを理解している。 b:２次関数のグラフとｘ軸との共有点の個数や位置関係を考察できる。 c:放物線のもつ性質に興味・関心をもち、自ら調べようとする。	小テスト 定期考査 課題提出	小テスト 定期考査 課題提出	ノート提出 授業態度 課題提出

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度